



地域性と オーセンティケーション

Danny Woo Community Gardens, Seattle

吉江俊
東京大学
大学院都市工学研究科

Shun YOSHIE, Ph.D

本日の話題

1 地域性はどこにあるのか？
それを生かすとはどういうことか？
いくつかの事例

2 オーセンティケーション：
まちの魅力の発見からその共有、計画
に至るまでのプロセス

1

地域性はどこにあるのか？
それを生かすとはどういうことか？
いくつかの事例

- 1 地域性には、市区町村史等に登場する客観的な・権威化された歴史に由来するものと、住民がそこで暮らし、生活を営むなかで形成された間主観的な・経験された生活史に由来するものがある
- 2 前者は、それを安易に記号化して使うのではなく空間のなかでどう現れ、人びとの暮らしの中にもどのように息づいてきたかを考察する必要がある
- 3 後者は目に見えないものであり、住民に対する質的な調査と、その共有・アーカイブ化が望まれる
- 4 両者を扱う際に共通することは、「それが形成されるまでには時間がかかるが、壊すのは一瞬」という対象を見つけることだ

事例A

まちの成り立ちが
特徴的な空間となって表れている場合：
大きな事例（A1）と小さな事例（A2）

Case.A-1

原宿駅前：

都心に残る住居地域が形成するヒューマンスケールな街区を尊重する



With Harajuku / 2017年

店舗、展示場、共同住宅

建築主：NTT都市開発

設計：竹中工務店・伊藤豊雄建築設計事務所

写真出典：竹中工務店

<https://www.takenaka.co.jp/design/works/with-harajuku/>

Shun YOSHIE, The University of Tokyo



写真出典：吉江（以下、無記名のものは同様）



SEIKO

Kartens

入口
ENTRANCE



HERE (1F)

B1F
← B2F

階段でB2Fへ
DOWN THE STAIRS







原宿QUEST／2025年

店舗、事務所

建築主：NTT都市開発、H-QUEST特定目的会社

設計：株式会社NTTファシリティーズ、OMA

写真出典：原宿QUESTホームページ

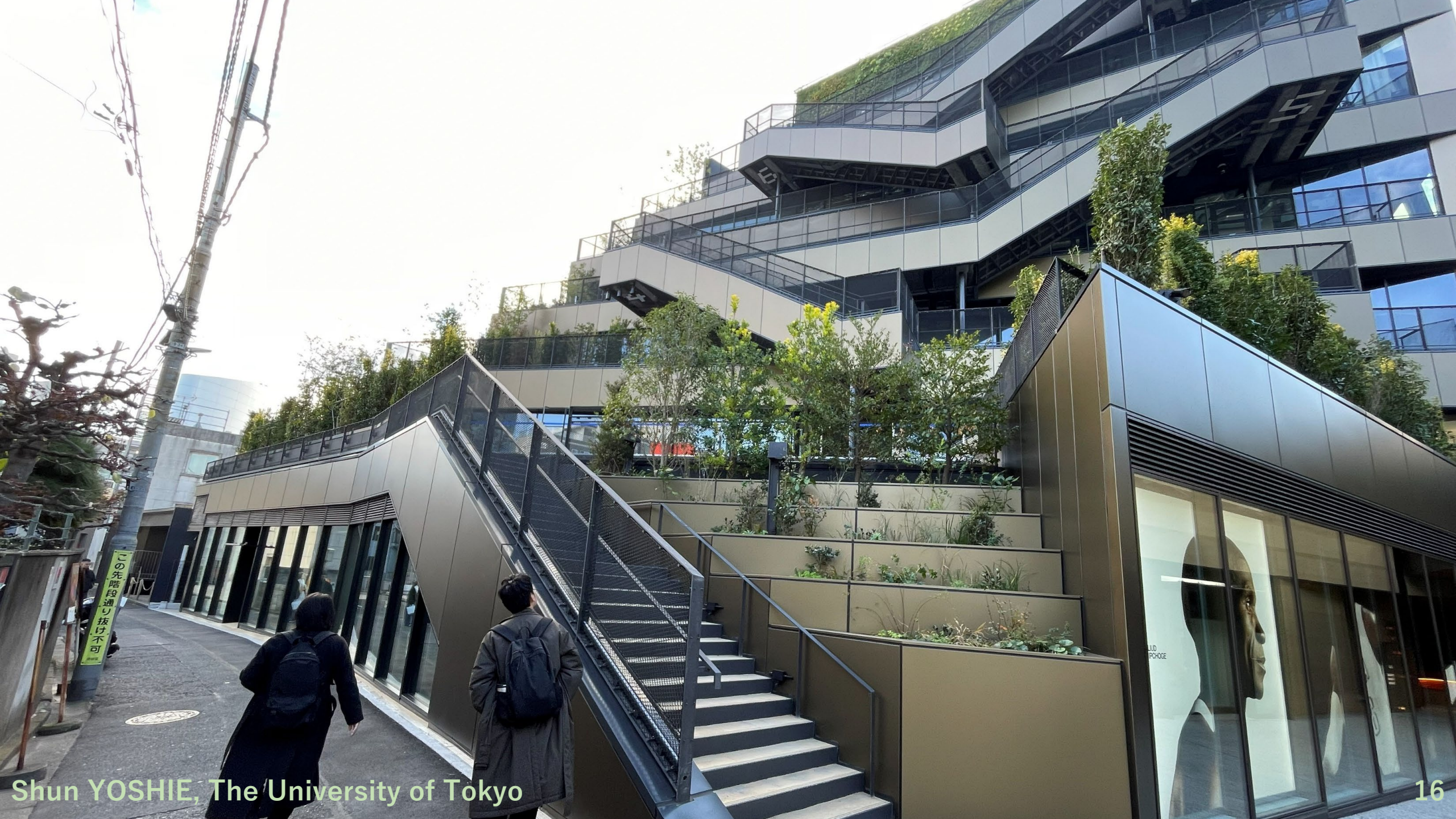
<https://harajuku-quest.com/gallery/completion-photos/>

Shun YOSHIE, The University of Tokyo



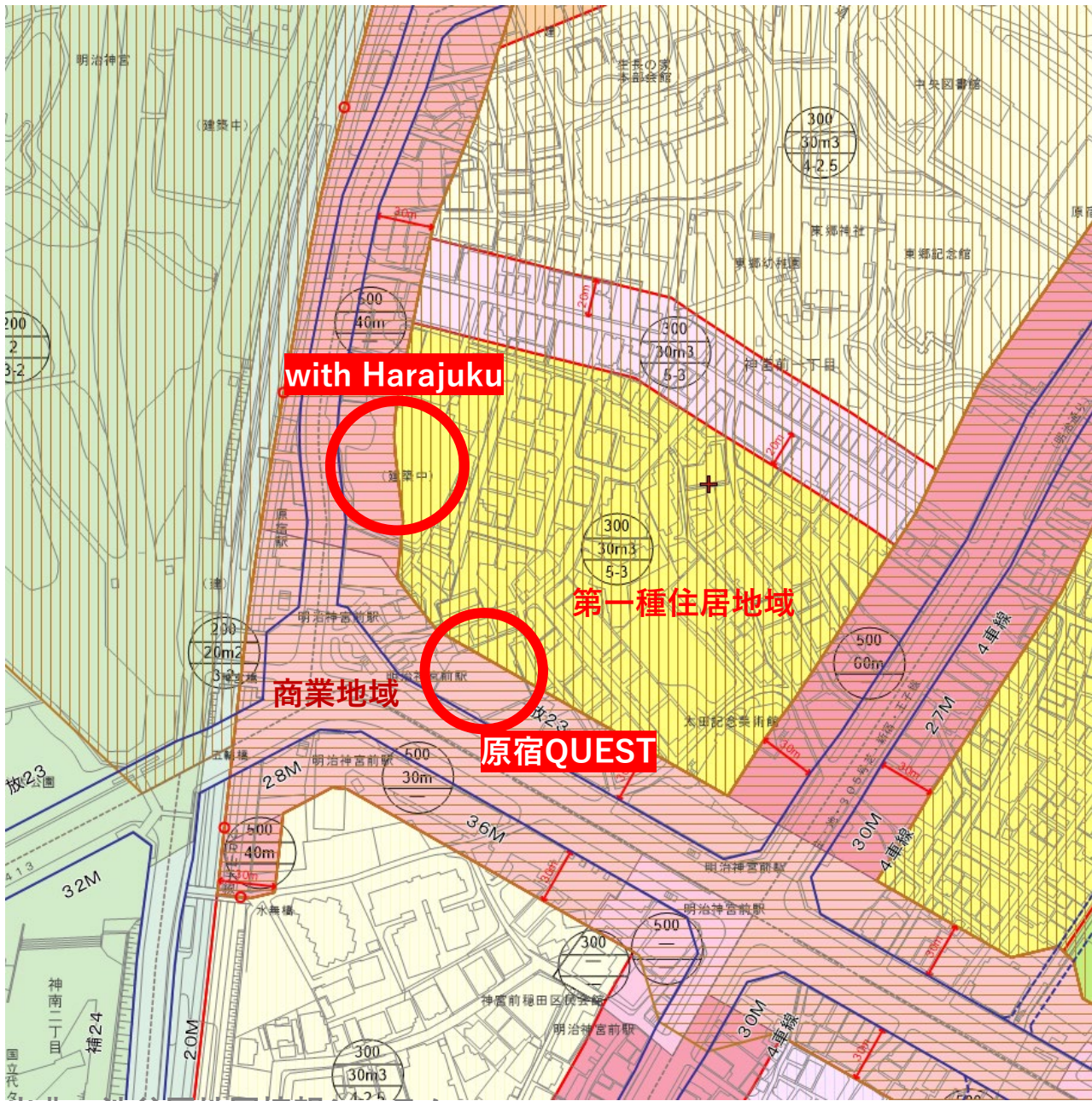
Shun YOSHIE, The University of Tokyo





この先階段通り抜け不可

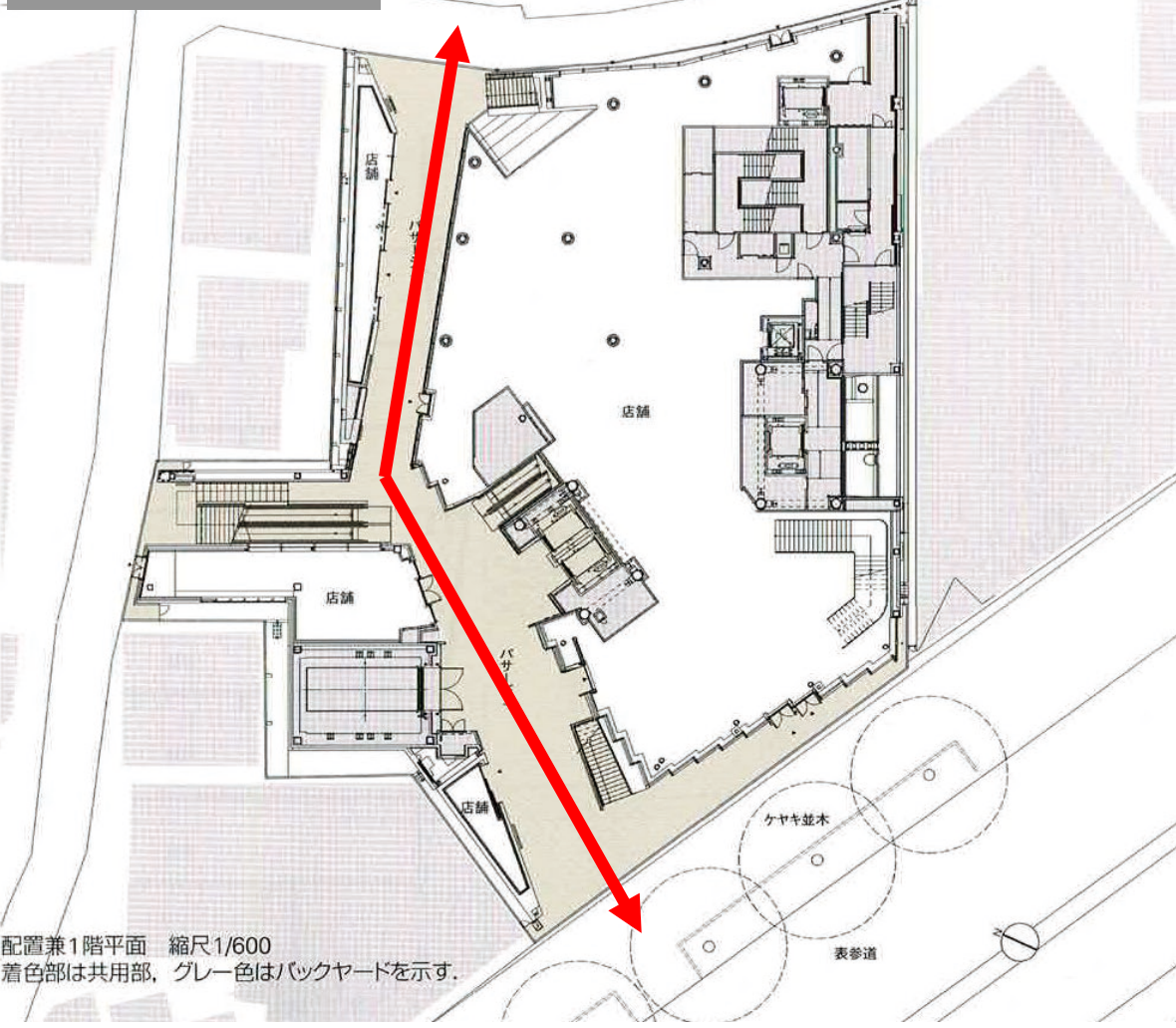
Shun YOSHIE, The University of Tokyo



出典：渋谷区地図情報システム

原宿QUEST

都心に残された住居地域が独特な住商混在の
 ヒューマンスケールな環境を形成していることを
 資源ととらえる



配置兼1階平面 縮尺1/600
 着色部は共用部、グレー色はバックヤードを示す。


出典：『新建築』 2026年5月

ブルームスの小径
1960年代に暗渠化された小道。
1976年に洋館（サロン）が建設された際に命名





Shun YOSHIE, The University of Tokyo

A photograph of a courtyard area. In the foreground, there is a circular fountain with a tiered, ornate metal structure in the center. The fountain is surrounded by a brick-paved area. To the right, a person in a white dress and hat is standing near a large arched entrance of a building. The building has a classical architectural style with white walls and red accents. To the left, there is a modern building with a light-colored facade and a balcony. The sky is clear and blue.

モーツァルト通り
命名の経緯は不明だが
通りの入り口にある病院の玄関に
モーツァルトのレリーフがある



東京原宿医院
1F 内科

コーヒーを
どうぞ
カフェ・ヴォールールドゥ・フルール



住居地域内の建物をリノベーションした
カフェ、オフィス



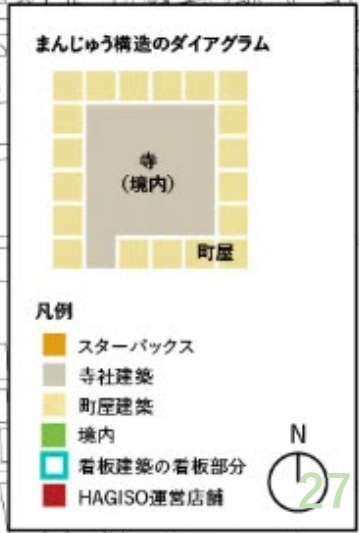
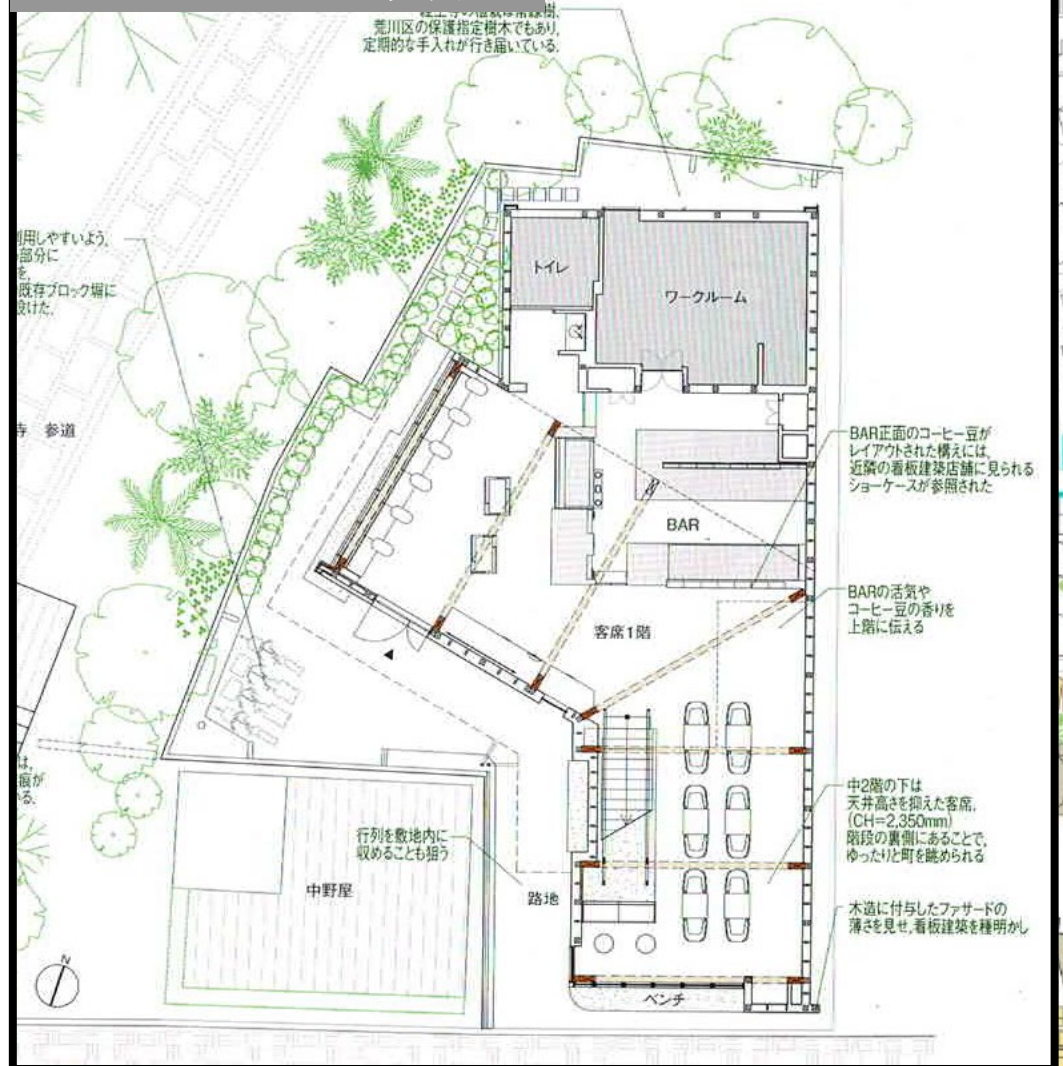
Case.A-2

谷中銀座：
寺社を背後に立つ小さなカフェが
まちの構造を可視化し、伝える



出典：『新建築』 2026年5月
Shun YOSHIE, The University of Tokyo

商店街の裏に社寺と豊かな緑地がある
 歴史的に形成されてきた表通り沿いの檀家と
 裏の寺との関係を可視化するために
 アプローチを工夫する





Shun YOSHIE, The University of Tokyo



事例B

目に見えない生活史を
丹念に聞き取り、共有していく場合：
まちのスケール（B1）と団地のスケール（B2）



Case.B-1

奈良県今井町の場合

伝統的なコミュニティが残るまちの
新旧住民をつなぐオーラルヒストリー

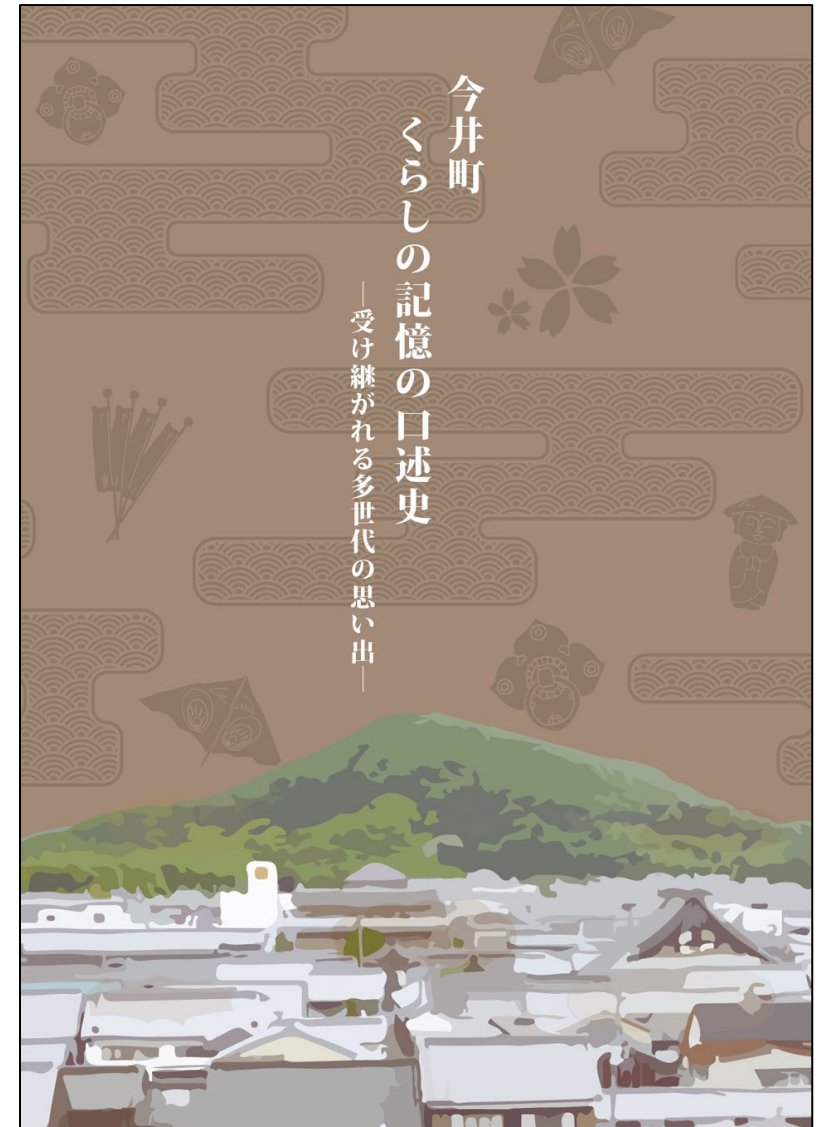
奈良県今井町のオーラル・ヒストリー

奈良県橿原市今井町で行ったオーラルヒストリー調査は、また別の目的があった。

今井町は**重要伝統建築物群保存地区**に指定されている、歴史ある住宅地である。現在は各所で空き家が発生しており、**新しい居住者を迎え入れる**ことが課題であった。

早稲田大学は今井町の近くに立地する奈良県立医科大学とともに「人も元気に、まちも元気に」を目標として医療技術を取り入れたまちづくりを進めることになるが、その初めに着手されたのもオーラルヒストリー調査だった。

このオーラルヒストリー調査は、これまで今井町でどのような暮らしが営まれてきたかを、**新しく移り住んでくる住民と共有する**目的で編纂された。

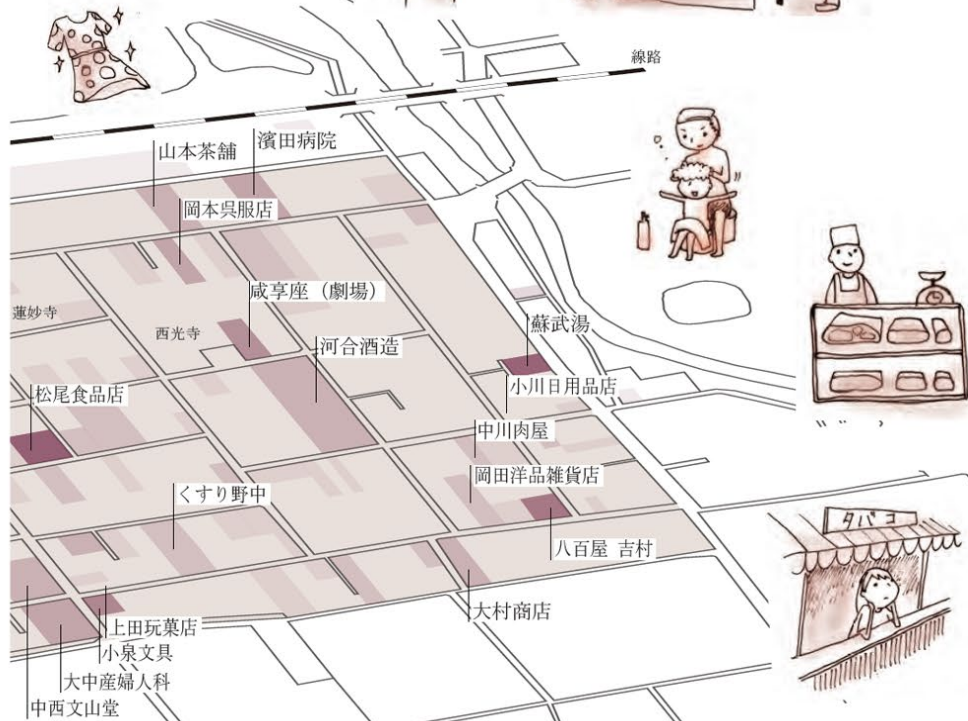
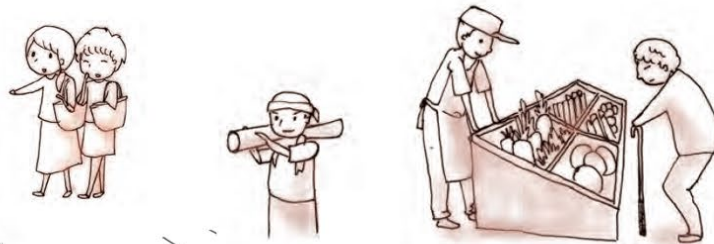


思い出のあの店

昔の商店の雰囲気

かつて「大和の金は今井に七分」と言われるほど栄えていた今井町。昭和の中頃辺りまでは町内に商店がたくさん並び、日用品はすべて町中で調達することができました。また、環濠内だけではなく、環濠外の人も買い物に来るなど、今井町の商店は多くの方々から親しまれていました。

当時の今井町における様々な生業の様子について伺ったところ、思い出に残る商店の話を数多く聞くことができました。この節では、中でも特に多く語られていた「思い出の店」についてまとめていきます。



▲話題に出てきた店を色付けした地図
(多く取り上げられた店ほど濃い紫に塗っている)
※確認可能なものについては『福原市全市版 1970』(善隣出版社、1970年、資料5)によって店名を確認し、確認できなかった店についてはヒアリングで把握された店名を表記。

調査の結果、
150軒以上の店での思い出を採取することができました！

思い出の中で多く取り上げられていた店 TOP3:

- 1位…上田玩菓店 (駄菓子屋)
- 2位…八百新 (八百屋)
- 3位…朝日湯 (銭湯)

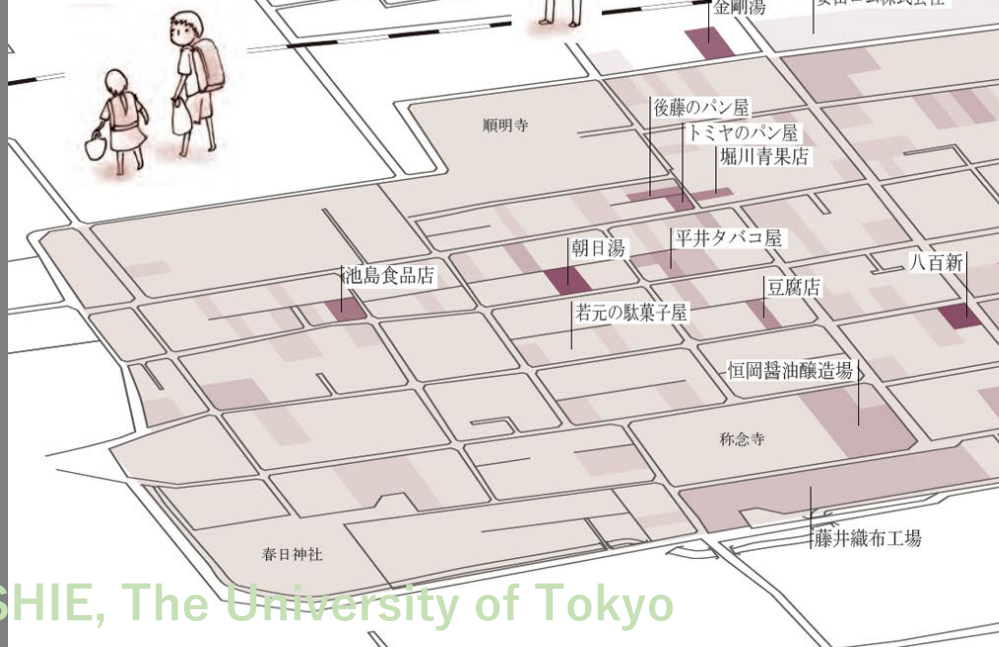


思い出

「(昔は) もっと商店がいっぱいあった。魚屋さん、野菜屋さん、お米屋さん、醤油屋さん、お酒屋さん、電気屋さん、新聞屋さん…。そういう商店がたくさんあった。」

思い出

「日用品は全部、町中で調達できた。もう賑やかでしたよ、毎日。人の出入りが絶えず、人が買い物に来ていた。朝、門口で(近所の人)話してたり、年寄りが椅子出して外で話してたり。すごく人の気配があった。」



まちなみ思い出マップ

本調査で収集された、まちなみに関する思い出を掲載しています。

地図中に配置されている番号は、次ページ以降のエピソード・写真に対応していますので、そちらも御覧ください。

(背景地図:1970年の今井町地図、出典:善隣社出版『榎原市全市版 1970』、出典:資料5)



遊具があった

ちょうちんを出して竹を渡していた

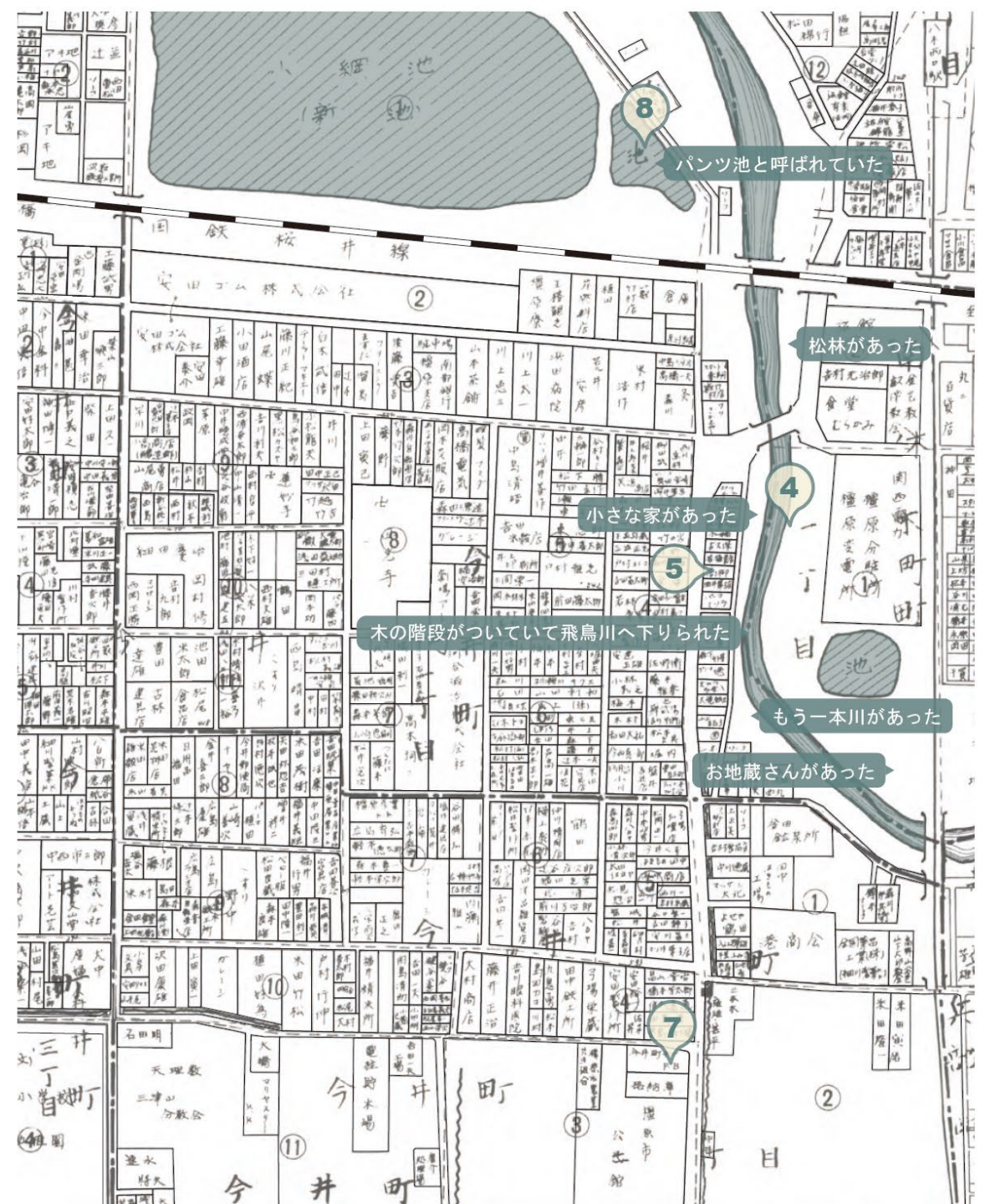
御堂筋が1番賑わっていた

イチヨウの木があった

堀に沿って竹林

ドブ川だった

小学校の入口はこちら側だった



パンツ池と呼ばれていた

松林があった

小さな家があった

木の階段がついていて飛鳥川へ下りられた

もう一本川があった

お地蔵さんがあった

町家の知恵

今井町の町家は非常に工夫された造りになっています。町家独特の「つし二階」や家の中央に配置された「坪庭」、いくつかの家で共同で使用していた「井戸」等の話を多く伺うことができました。古くから続く商人の町としての様子が、家の中の造りにも反映されています。

「馬つなぎと牛つなぎは違う。付けてある高さも違う。牛の方が50センチぐらい高い位置につけられている。」



●牛つなぎ
●馬つなぎ

「独特な造りで、本二階があって、一部だけ『つし二階』にしている。そこへ農業用のやつを、ツボ貯め部屋、倉庫、納戸みたいな感じにしている。長屋は圧倒的につし二階が多い。だから夏になったら暑い。」



(資料11を元に作図)

「『つし』という中二階の物置スペースのようなところがあって。昔は家の物を置く場所があまりなくて。母の嫁入り道具の長持ち等も置いていた。」

「前面の戸は全部おろせる。昔はみんな、おろしていた。」

「壁が灰色になっている。白かったり、黒の斑になっていたりしている。崩れて、はげて。戦時中、空襲されないように白い壁を黒く塗らされた。それが今になって禿げて来て、いい感じの風合いが出ている。」

「壁も剥がれ、屋根瓦も飛んで。昔は屋根のところに土を置いて、瓦を置いてっていう、建て方だったんですよ。せやけど余計重たくて、地震でドシャっとなるから、それを機に土をやめて、皆瓦だけ結ぶようなのに葺き替えた。」

「かまどのことをお籠さん

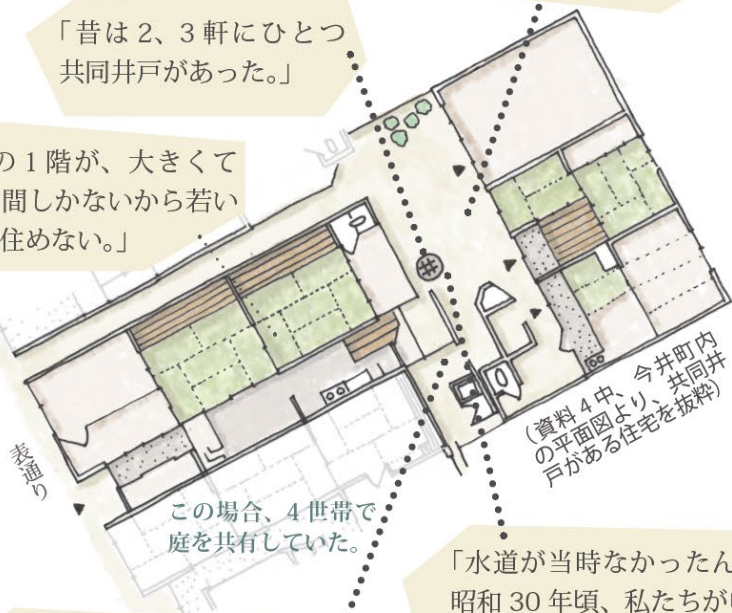
籠さんと呼んでいました。」

「今井町は鰻の寝床みたいな家ばかり。間口が広いとお金取られるから間口を狭く、建物を奥に長くした。だから今井町はどこ歩いても緑が見えない。今井町は商売の町だからすぐいらっしやいと言えるように全部庭を裏へ持っていった訳ですよ。」

「家は昔の六間取りで、開けたら一つの広間になる作り。冠婚葬祭はすべて家でできました。台所も今は板をはったけど本当は全部土間でした。この家は、昔は押し入れがありませんでした。真四角で。」

「昔は2、3軒にひとつ共同井戸があった。」

「家の1階が、大きくても2間しかないから若い人が住めない。」



(資料4中、今井町内の平面図より、共同井戸がある住宅を抜粋)

「この場合、4世帯で庭を共有していた。」

「水道が当時なかったんです。昭和30年頃、私たちが中学生だった頃はね。井戸水を昔は使っていた。」

「皆、壁が分厚いのですよ。つぶしたら半分土みたい。だから、冬は暖かいし、夏は涼しいし。蚊なんていなかった。」

「今井町というのは面白くて、地図で分かるように道から道までみんな抜けているのが多いのね。この長細いけども、ほんの小さい2坪か3坪の坪庭が真ん中ら辺にあった。」

「当時は背割り水路があったから各家のトイレや風呂場が奥にあって裏へ水を流す造りをしている。それで表はすぐ玄関になる。だから工事もしにくい。」



Case.B-2

神奈川県横浜市・洋光台の場合

不可視化された団地の履歴を浮かび上がらせる
オーラルヒストリー

洋光台南団地のオーラルヒストリー

洋光台南団地は1971年の入居開始から2021年で50周年を迎えた。

ここでは、団地の過去を振り返りながら、現在の状況、未来への想いを可視化する目的で「オーラルヒストリー調査」を実施した。調査は洋光台南団地のなかでも「四街区」と呼ばれる洋光台南第一住宅で、調査に応じていただいたのは21名。

1971年の段階では、入居開始時の住戸即金譲渡価格は398万円～517万円、最低一時金は150万円～190万円（当時の大卒初任給は4万6千円）だった。倍率数十倍の中から、「夢のマイホーム」を射止めた世帯主の平均年齢は46歳。

50周年の2021年は、ほとんどが代替わりしていると考えられる。



【凡例】

- 地名 関連のあるトピック
 - 「豊かな暮らしを支える環境」のトピック
 - 「培われたネットワーク」のトピック
 - 「自発性ある柔軟な新しい動き」のトピック
- ※トピックリストは前頁に記載



四街区周辺 MAP

今回の調査の中で多く語られた場所を集め、地図上に記載しました。暮らしやすい環境やコミュニティを支える場所が四街区周辺に広がっています。



- 【全域にわたるもの】
- 住戸 2, 3, 1
 - 階段 10
 - 芝生 12
 - 駐車場 4

- いっしん堂広場 8
- 円海山 9 に至る



01 豊かな暮らしを支える環境 P.24

- 安全・便利な住環境
 - 1 団地の住戸
 - 2 防犯・防災
 - 3 駅周辺の施設
 - 4 飲食店・コミュニティカフェ
 - 5 歩道空間・道路空間・公園
 - 6 幼稚園・小学校・中学校
- 身近な交流の生まれる拠点・居場所
 - 10 集会所
 - 11 階段
 - 12 子どもの遊び場
 - 13 科学館・ログハウス
 - 14 ケアプラザ
 - 15 結 cafe
- 気持ちの良い自然環境
 - 7 四街区内の環境
 - 8 洋光台地域の公園
 - 9 円海山・海

02 培われたネットワーク P.42

- 暮らしやすさを守ってきた組織
 - 1 管理組合
 - 2 自治会
 - 3 子供会
 - 4 カークラブ
- 交流を通じて培われた人間関係
 - 7 子育てネットワーク
 - 8 地域の集いの場
 - 9 習い事・クラブ活動
- 皆で作上げるイベント
 - 5 運動会
 - 6 お祭り

03 自発性ある柔軟な新しい動き P.60

- 誰もが楽しみながら参加できる雰囲気
 - 1 みどり同好会
 - 2 集会所サポーター
 - 3 南洋光クラブ (老人会)
 - 4 四街区カフェ
- 時代や環境に合わせた変化
 - 5 こどもの会
 - 6 ファミリー文庫
 - 7 リフォーム
 - 8 近居 (Uターン居住) と再会

皆で作りに上げる イベント

5 運動会

四街区では団地を9つのブロックに分け、ブロック対抗の運動会が開催されてきました。運動会には景品が用意され、子どもだけでなく、大人も本気で夢中になる白熱したものになっていました。

「昔は9区で対抗の運動会をやっていた。トラックを作って、俺なんかスターをやったりしたんですけど。9区

をもとにして、対抗戦をやったり、あとはお祭りでは9区で樽みこしを作らせてやっていた」

「団地の中の中央広場で運動会があった。各区対抗と言って、ブロックでグループをつくって。グループごとにおみこしを作って、練り歩く。なおかつブロック対抗で綱引きをやるとか、ムカデ競争をやるとか」

「コロナ前はハロウィンや運動会はパン食い競争もやった」

Topics :

- 5 運動会
- 6 お祭り

「子どもが小さい頃は運動会も何もかも一緒でしたね。(中略)ムカデ競争とか。大人の人は一所懸命だから転ぶ人も多かったですね」



四街区内の運動会の綱引き (1980年代) *6

また、団地内の運動会とは別に、洋光台では「健民祭」と呼ばれる地域の運動会も開かれていました。団地内にとどまらない、地域住民の交流の場となっています。

「地区の運動会は(中略)大体2000人くらいが集まる。第四小学校で。ほとんどは地区別対抗で。10何地区があったんですよ。それを5つか6つくらいに分けて。小さい自治会もあるし。最後のリレーは盛り上がりますね。やっぱり競争は人間の本能なのかな(笑)。ムカデ(競争)をやったりね。いろんな組み合わせでムカデをやるんだけど。昔は大人も入ってやってたんだけど。(大人は)ケガしやすいんですよ。だから今は子どもだけで、小学校1年から男女そろえるんだけど、そろわないところも出てきている。競争になると、自分の体力を忘れて夢中なんです(笑)」



四街区内の運動会に参加する親子 (1980年代) *6



四街区内の運動会のラムネ早飲み (1980年代) *6

「健民祭では若かったので縄跳びに参加したのを思い出しました」

「健民祭という洋光台地域でやる運動会があって。それも参加すると醤油やジップロックがもらえたりする。(中略)私も参加したけど楽しかった」

時代や環境に 合わせた変化

5 こどもの会

四街区にはかつて、小学生が参加する「子供会」(P.47)が存在していました。しかし共働きの世帯が増え、参加する家庭が減ったことや、運営に対する親の負担感が大きくなったことから、活動の存続が危ぶまれていました。これを受け2021年、小学生だけでなく全居住者が関わることできる会として「こどもの会」が新たに始まりました。みな負担にならず、楽



しめるような会であるとともに、居住者との関わりが少なかった人も気軽に参加できる活動が目指されています。

「子供会」は、小学生が対象だったんですけど、「こどもの会」に変わって、対象者は赤ちゃんから中学生まで。それ以上の年齢の人は、サポーターとして全住民が関わられる活動(に参加する)というように変わったんです。中学生だと両方の関わり方ができます」

「住民みんなで子どもをみようよ、楽

Topics :

- 5 こどもの会
- 6 ファミリー文庫
- 7 リフォーム
- 8 近居(Uターン居住)と再会

しもうよ、ということ(になると良いと思っ)」

「赤ちゃんがいる方ってほしい新しく引越されてきた方が多いので、友達もいない。そうするとここ(集会所)で友達もできるし、(中略)こういうイベントに参加すると理事や自治会長なんかも面識がきたりして、安心できると良い」

「こどもの会」は、子どもの自発性を尊重した形で活動しています。キャ

秋祭りでのワークショップに参加する子どもたち



ンドルナイトや秋祭りなどのイベントにおいても、子どもたちの主体的な参加がみられます。

「こどもの会」のイベントやついでにときに見ただけど、すごいなと思っ
たのは、みんな主体的にお店を準備していること。素晴らしいなと思いまし

II. 田地の暮らしの魅力

03 自発性ある柔軟な新しい動き

た。(中略)5万円もかかってしまったと準備した子どもが言ってました(子どもたちが備品を)全部インターネットでオーダーしたとか。あるいは買いに行ったとか。自分がやってみて『楽しそうだな』と思うお店を開いているんですよ。一軒一軒店を覗いて子どもたちと話して素晴らしいなと思ひ、元気をもらいました」

「イベントも何がやりたいかから子どもに聞いたりして。今まではやるって決まったことをやってたが、子どもがやりたいことを拾って、いっ

コロナ禍でイベント開催が難しい状況が続きましたが、最近では焼き芋大会など、様々なスキルを持った人を巻き込んだ新しい試みも生まれ、組織の枠組みを超えた活動へと発展しています。今までのやり方に囚われない新しい活動ができる土壌があります。

6 ファミリー文庫

四街区には「ファミリー文庫」と呼ばれる、本の共有および貸し借りの活動があります。

新しく建て替えられる前の集会所では、「子供会」(P.47)が会員に向けて、特定の曜日・時間帯にファミリー文庫を運営していました。集会所が建て替えられてからは、日中であれば基本的にいつでも誰でも利用できるようなものとともに、「子供会」に入っていない子どもでも気軽に利用できるような新しいファミリー文庫へと変わりました。同時に、「ファミリー文庫サポーター」が生まれ、本の貸し出し、寄付された本の管理、さらには新聞の切り抜きの展示や本を置く順番の工夫などが実施されています。

「今(ファミリー文庫)はいつでもオー

2

オーセンティケーション：
まちの魅力の発見からその共有、
計画に至るまでのプロセス

- 1 なにがその地域らしさかというオーセンティシティ（真正性）は、古いものだけに限らない。由来（origin）と新しい始まり（new beginning）の両者がオーセンティシティになりえる（シャロン・ズーキン）
- 2 マスツーリズムの時代から成熟した観光の時代には、記号化された安易な地域性よりもリアルな生活を求めるうごき（＝生活観光）や「生活景」の重要性も高まる。地域のオーセンティシティは一枚岩ではなく、多角的に模索されるべきである
- 3 オーセンティシティ自体よりも、なにが地域のオーセンティシティかをみなで模索するプロセス＝オーセンティケーションが重要であり、その過程に真正性が宿る
- 4 オーセンティケーションには、少数の個人や組織に権力が集中し、トップダウンで行われる「クール・オーセンティケーション」と、人びとの感情と行動の累積から構築されていく「ホット・オーセンティケーション」がある（エリック・コーエン）

宮城県加美町のプロジェクト

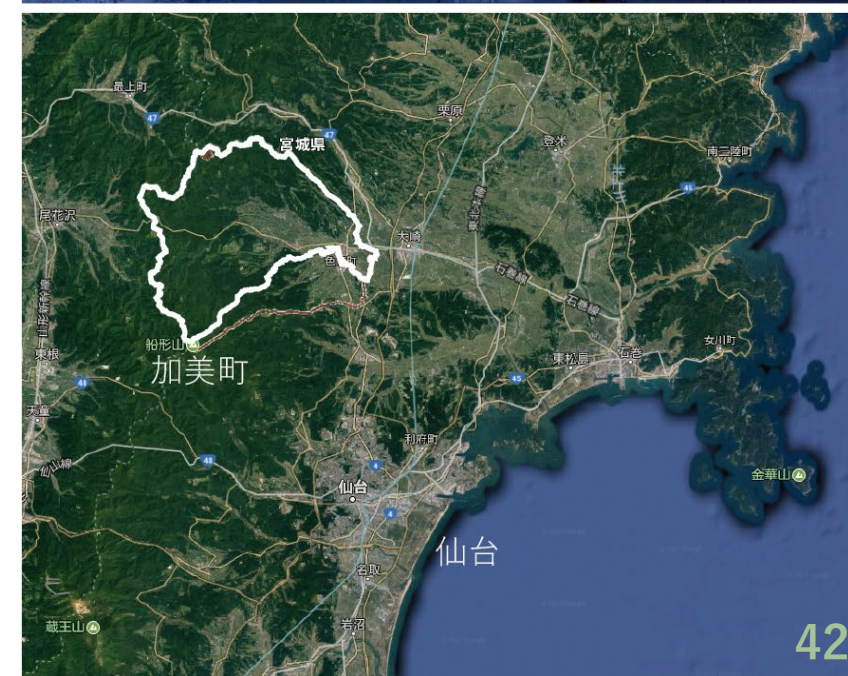
2012年、宮城県北西部の加美町から依頼があり、研究室と町（協働のまちづくり推進課）が協力して行うまちづくりのプロジェクトが始まった。

人口21,893人、460km²の面積をもつ、山間の町である。

加美町は2003年に中新田・小野田・宮崎町が合併してできた町であり、当時はそれぞれの町が分断されている状態だった。

まちの「景観」を頼りにして、加美町の様々な地域のアイデンティティを共有し、住民間のコミュニティをはぐくむ支援をすることが目的であった。

当初予定された期間は3年間。具体的な取り組みの内容は、大学と自治体で話し合いながら決めていくこととした。





高十商店

ちや

伊藤淳
120周年
後援会

梁萬

梁萬
創業江戸時代

TAKAMASHI

you



河北新報
中瀬川
中瀬川

中瀬川
中瀬川
中瀬川





向こうに見えるのは「加美富士」とも呼ばれる「**薬菜山**」。ふもとにはゴルフ場やレジャー施設があり、中新田と匹敵しうる小野田のアイデンティティとなっている

生活の営みと風景から地域性を考える： オーラルヒストリー調査と景観調査

私たちは「目に見える風景には、それを形作っている背後の生活がある」ということに着目する。

この立場にとって景観まちづくりとは、目に見えている景観がどのような生活文化によって成り立ってきたかを理解し、それを手入れしていくアプローチである。

第一に、地域住民の暮らしを、住民100名への**オーラルヒストリー調査**を通して明らかにした。それぞれの自宅か職場にお邪魔して90分ずつ、生まれてから現在までの生活の様子、まちの変化、思い出等について聞き取った。

第二に、それぞれの集落を自転車で巡り、重点的に調査する場所は徒歩で記録する**景観調査**を行った。

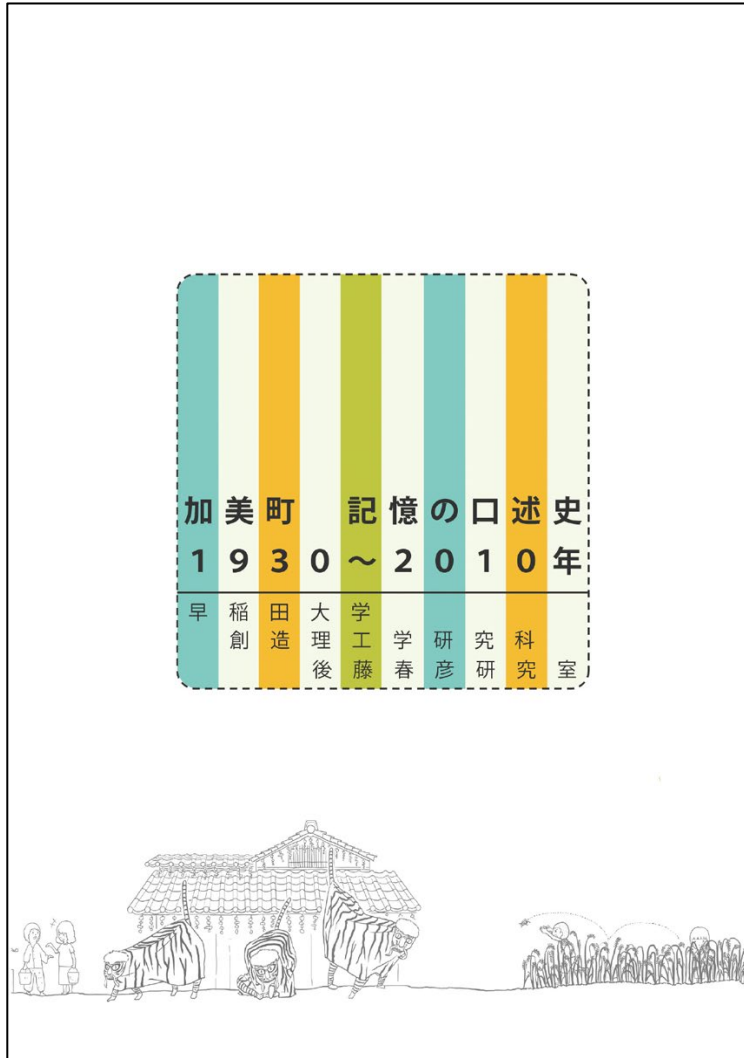
これらは実態を明らかにするだけでなく、その過程で、**学生たち／住民／自治体職員たちのまちへの理解が深まり、まちづくりへの関心が高まっていくというプロセス**でもあった。







『加美町 記憶の口述史』の編纂



100人の口述史は、なりわい・暮らし・自然・担い手という4つの章で整理され、一冊の本になった





時計・真鍮
はたやま
ま

時計
ま

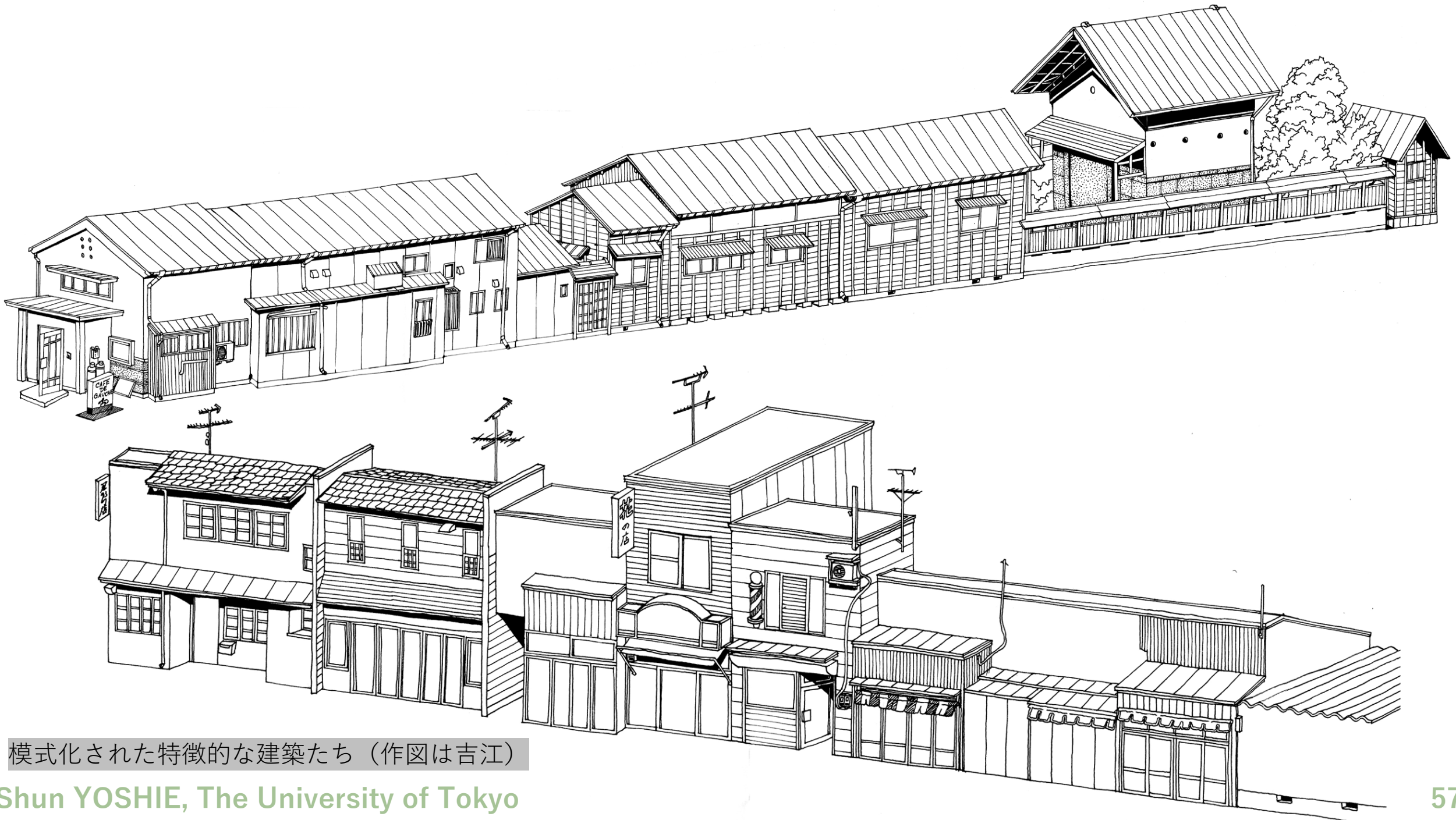
時計
ま



CAFE
DE
GAUCHE
for R.F.H.





模式化された特徴的な建築たち (作図は吉江)

加美町 景観調査 パネル展示



～加美町景観調査のパネル展示について～
今回は、早稲田大学の学生たちが加美町の景観を調査しました。調査の結果、加美町の景観について意見を交わすワークショップのほか、バス停や公民館、小学校など様々な場所にパネルを展示する「巡回美術館」も企画しました。



表示パネルには
さわらびてください

景観調査の結果得られたテーマごとをまとめ、**31枚のパネル**にした。加美町の景観について意見を交わすワークショップのほか、バス停や公民館、小学校など様々な場所にパネルを展示する「巡回美術館」も企画した

3年目にしてまちづくりの方向性を練り上げる

1年目にはオーラルヒストリー調査、2年目には景観調査。
3年目にしてようやく、まちづくりの方向性を練り上げる段階となった。

まちの「場所性」を読み解くには、それぐらい時間がかかる。
重要なのは、昆虫標本のようにまちの様子を記録して終わるのではなく、
住民とともに発見を共有し、地域の場所のありかたについて議論し、
自分たちの町に改めて興味を持ってもらうことである。

100人の聞き取り調査からはじまって、まちづくりに興味をもつ住民も
少しずつ現れてきた。
さらにこの活動の中で、加美町の「協働のまちづくり推進課」の職員たちも
まちづくりにのめり込むようになってきた。
まちづくりにおける調査は、何かを知ること以上に、関係者を増やし、関心を高め、
心を近づけていく実践である。

ようやく本格的な「プランニング」に進む頃合いである。

連続ワークショップの開催

全戸配布の「景観だより」でいよいよ募集をかけ、連続ワークショップを開催。

第一回はまちの課題共有、
第二回はそれに対するアイデアの提案、
第三回はアイデアを実現していくための具体的な知恵や取り組みのイメージを深めること。

ワークショップの手法は事前によく検討し、シミュレーションを繰り返した。



わたしたちのまちの明日を描く

未来をつくるアイデアを出し合い、加美町のこれらを描こう

ワークショップ開催

第一回：2014.6.7（土） 9時～12時 中新田公民館 大ホール
第二回：2014.6.28（土） 9時～12時 小野田福祉センター ホール
第三回：2014.8.2（土） 9時～12時 宮崎公民館 創作研修室

主催：加美町 協働のまちづくり推進課 + 早稲田大学 後藤春彦研究室

加美町の景観まちづくりに2年にわたって関わってきた早稲田大学の学生たちの協力を得て、加美町のみなさんがまちづくりのアイデアを出し合う場（ワークショップ）を設けます。全3回の連続ワークショップを通じて、まちの課題や魅力、まちづくりの方向について、話し合い、みんなで加美町の明日を描きましょう！参加申し込みは不要です。誰でもお気軽に参加ください。



報告 美しいまちなみづくり検討委員会の活動

平成 26年 5月発行

「美しいまちなみづくり検討委員会」では、景観計画策定に向けた検討を行っています。昨年10月から今年3月までに開かれた3回の検討委員会を経て、4月30日に第4回検討委員会が開催されました。ここでは、ワークショップの方法や景観計画のまとめ方、今後のスケジュールなどについて話し合いました。今後も、町民の皆さんからご意見をいただきながら加美町にふさわしい景観づくりを検討していきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

「わたしたちのまちの明日を描くワークショップ」が開催されます！

これからの加美町の取り組み

これまで加美町では、加美町らしい景観まちづくりを進めていくために、「まちづくりオーラルヒストリー調査」や「景観調査」そして2度のワークショップを行ってきました。それらの調査で得た加美町の課題や魅力を踏まえて、これからは、まちづくりをどのように進めていくかを、町民の皆さんと一緒に具体的に考えていきます。

「わたしたちのまちの明日を描くワークショップ」とは？

まちづくりの取り組みを持続的なものにしていくためには、町民のみなさんの問題意識や「やりたい」と思うことを盛り込み、みんなでまちづくりの方向性を決めていく必要があります。このワークショップでは、3度にわたって問題・課題・魅力の整理や、それらを繋ぎ合わせてどのような未来を描けるのかを考え、今後景観計画へ反映させるべき点を抽出していきます。

第一回ワークショップ 6/7（土）

まちの課題を共有し、取り組むことを考える

まちづくり人生ゲーム 加美町で生活する様々な場面の中で、みなさんがどんな選択をするのかを考える「人生ゲーム」を通して、まちの課題を発見します。

まちの環境の問題の整理 人生ゲームから考えるまちの問題をカードに整理します。

まちの課題とこれからの方針 まちの問題をどうしたら解決できるか話し合い、取り組むテーマを出し合います。

第二回ワークショップ 6/28（土） ※第二回からの参加も歓迎！

まちづくりの取り組みの全体像を描く

前回の復習！ 前回ワークショップのまとめをして、みんなで共有します。

まちづくりの取り組みを考案 前回の結果をさらに深めていきます。

取り組みのグループ分け グループ分け 取り組みのアイデアをグループに分け、取り組む順番を整理して、まとめていきます。

取り組みテーマの整理 まちをよくする計画をまとめていきます。

第三回ワークショップ 8/2（土）

実現するための具体的な内容を考える


いままでのワークショップでまとめたアイデアの実現に向けて、具体的に話し合います。

加美町では、今後も景観計画の策定過程や景観について、わかりやすく景観だよりでお知らせしていきます。
【発行】加美町 協働のまちづくり推進課 TEL:0229(63)3215 MAIL:kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp
【加美町 HP】 <http://www.town.kami.miyagi.jp/>
【Facebook】 <http://www.facebook.com/kamimachi.keikan.100>

はじめは「まちづくり人生ゲーム」から

いまあなたが生まれたとして、それぞれの年齢の時にどんな選択をとるか？
21の質問に対して旗揚げをしてもらい、**その答えの多様性**をまずは共有する。
 次に**質問の答えが変わるかもしれない望み**はどこにあるのか、話し合っていく。

加美町



まちづくり
人生
ゲーム

わたしたちのまちの明日を描くワークショップ
 早稲田大学 後藤春彦研究室
 加美町 協働のまちづくり推進課
 2014年6月7日

少年期

Q1. 遊び場 (小学生)
小学生のあなたの好きな遊び場はどこですか？

①山や川など、自然の中で
②学校の校庭
③田んぼや空き地、生活路
④神社や寺の境内
⑤その他

Q3. 進路選択 (高校生)
高校を卒業することになりました。卒業後の進路を選択してください。

①加美町で働きたい
②古川の近くの町の職場に通う
③町外の大学や職場に行くが、いつか必ず戻ってきたい
④大学に行き、大きな町で働きたい
⑤その他

Q4. 故郷紹介 (23歳)
よそのまちの恋人に、加美町を紹介しようと思います。業業山やお祭りなどの話しますが、他に何を自慢しますか？

①鳴瀬川や田川などの豊かな自然
②居久根や生け垣の残る昔ながらの住まい
③米や野菜などの新鮮な食べ物
④切込焼記念館やパハホールなどの文化施設
⑤その他

Q2. 自由研究 (中学生)
夏休みの自由研究のテーマは「加美町の環境」です。どのようなことを調べますか？

①鳴瀬川や田川について
②業業山の自然について
③湿地帯周辺の植生について
④家を囲む森林、居久根について
⑤その他

Q6. 子供の誕生 (30歳)
初めての子供が生まれました。どのように育ててほしいですか？

①自然の中でのびのびと元気に育ててほしい
②お年寄りや友達、沢山の人の中で思いやりのある人に育ててほしい
③幅広い学問にふれ、見識ある人に育ててほしい
④豊かな文化、芸術にふれて、感性豊かに育ててほしい
⑤その他

Q7. イベント (31歳)
毎年、イベントの準備が大変です。加美町の年間行事の数をどう思いますか？

①お客さんと呼ぶために、イベントはもっとたくさん必要
②今くらいがちょうどいい
③準備が大変なので、イベントの数を減らしたい
④数よりイベントの内容を見直したい
⑤その他

Q5. 新居 (27歳)
結婚することになりました。どんな住まい方をしますか？

①加美町の実家で両親と住む
②加美町には住むが、両親とは別居したい
③古川など近くのまちでアパートを借りるが、将来は加美町で家を持ちたい
④ほかのまちに家を持ちたい
⑤その他

Q8. 子育て (32歳)
自営業を営むあなたの家では、昼間子供の面倒を見る事が大変です。あなたならどうしますか？

①両親に子守りを頼む
②幼稚園、保育園に預ける
③店に連れてくるなど、夫婦だけでなんとかする
④しばらくは妻(夫)が子育てに専念する
⑤その他

Q9. 子供と過ごす夏休み (36歳)
子供が小学生になって初めての夏休み。子供と自然の中で遊ぶためにあなたはどこへ行きますか？

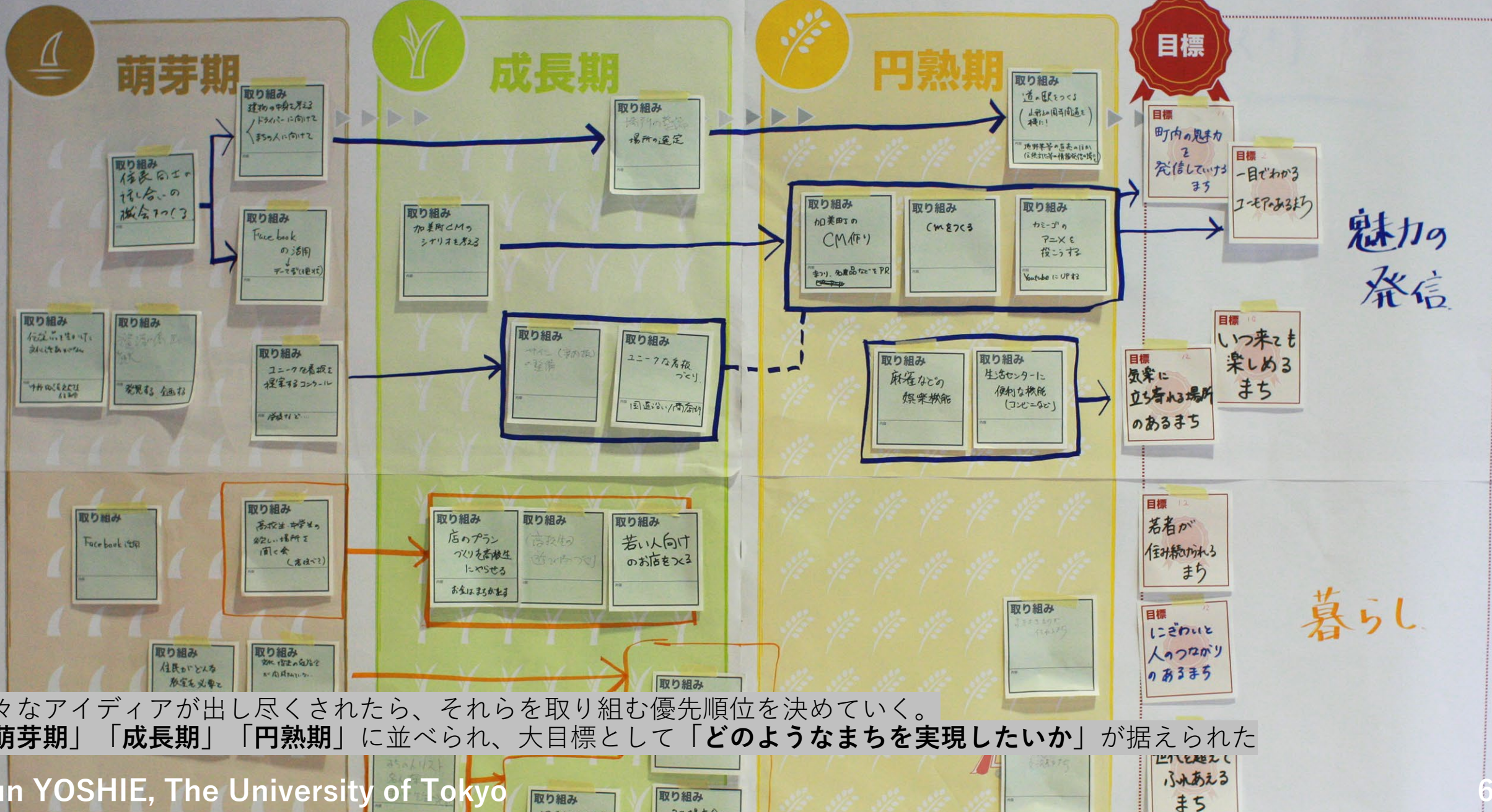
①鳴瀬川や田川で川遊びをする
②業業山でハイキングをする
③町外の行楽地へ遠出する
④仕事が忙しく、子供と一緒に出かけるのが難しい
⑤その他

61

取り組みの体系図

参加者 氏名:

地区 **中新田**



魅力の
発信

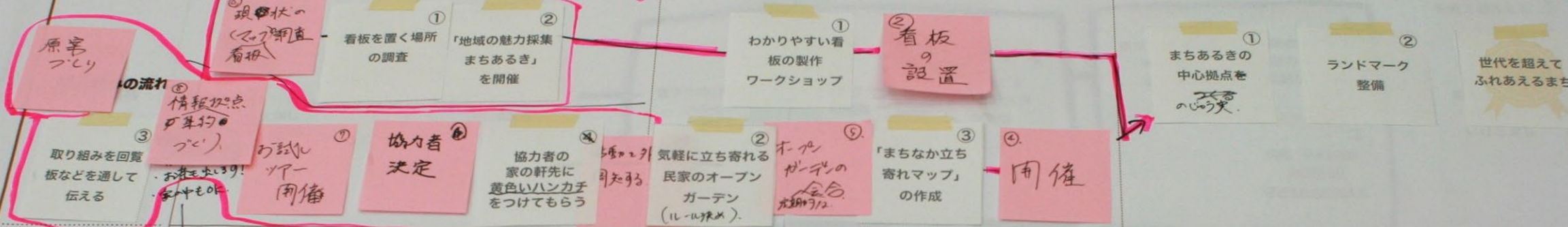
暮らし

様々なアイデアが出し尽くされたら、それらを取り組む優先順位を決めていく。
「萌芽期」「成長期」「円熟期」に並べられ、大目標として「どのようなまちを実現したいか」が据えられた

おもしろい心で地域の人情を発信し、にぎわいのあるまちへ

萌芽期 成長期 円熟期

商店街の調査/自民が問わぬ(おもしろい) ワークショップ開催/取組の発行 拠点の整備



取組の内容

③ 民家開放に協力してくれる人と回覧板と名刺、チラシで募集、④ 開放の日、開放時間、⑤ 観光スポットと合わせた「おもしろい」ツアー開催、⑥ 協力の家、⑦ 初歩部隊の立ち上げ、⑧ マップ調査を行う。

② 開放の日、開放時間、③ 観光スポットと合わせた「おもしろい」ツアー開催、④ 開催、⑤ 協力の家、⑥ 協力の家、⑦ 協力の家、⑧ マップ調査を行う。

いつ?	どれくらいの期間ですか?	どれくらいの頻度ですか?	どの時期が望ましいですか?	どれくらいの期間ですか?	どれくらいの頻度ですか?	どの時期が望ましいですか?	どれくらいの期間ですか?	どれくらいの頻度ですか?	どの時期が望ましいですか?	どれくらいの期間ですか?	どれくらいの頻度ですか?	どの時期が望ましいですか?
⑤ 実行(定期)時に、 原案(1回) 萌芽期は3~6月 (例: 一日、一週、一年)			春~秋	1ヶ月/1回								
②、③、④、⑤ 商店街調査 ← 興味あるところ												
⑥ マップ制作 (情報発信 予約・予約)、自転車・貸し出し												

だれが? だれと?

② おもしろい: 町屋老人ホームと合同でイベント!
③ 協力者による。

商店会、商店街調査

どこで?

① まちなかセンター

どんなサポートが必要ですか? (人 モノ お金 情報)

○ どのサポートが必要ですか? (人 モノ お金 情報)

『景観まちづくりプラン』の策定

3年間の成果は、2015年4月に『**加美町 協働の景観まちづくりプラン**』として発行された。

4章構成で、「加美町を知る」「加美町の未来を描こう」「シナリオの実現に向けて」そして「取り組みのシナリオ集」からなっている。

決定した計画を淡々と書く従来の計画書とは異なり、住民間で共有され、そもそもの加美町という場所をどのように読み解くか、というところから考えてもらうための本になっている。

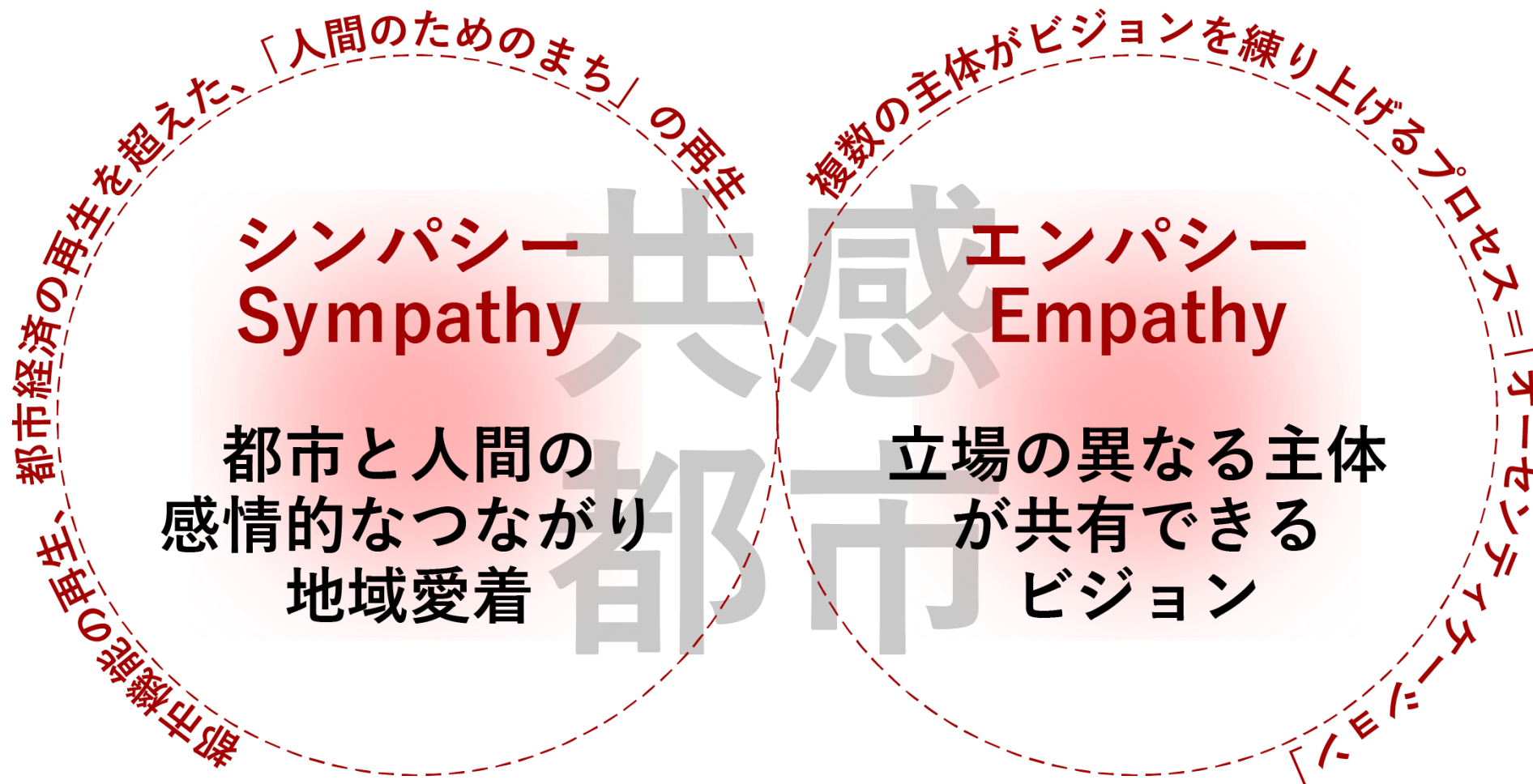
この本を通して各アイディアに関心がある住民を集め、取り組みに対して町が資金や人的サポートをしていく。このような取り組みは「**提案型まちづくり**」の一種と位置付けられる。



- 1 これまで紹介した地域性の活用や、丁寧なオーセンティケーションをそのまま民間企業が行うことは困難だろう
- 2 ただし、民間であっても開発の際に地域のオーセンティシティを生かす必要があること自体は明白であり、それは商業活動の基礎が〈差異化〉である以上、ほかとの差異をつくる究極の手段が自らのオーセンティシティを使うことだからである
- 3 持続的な経済活動のためには、オーセンティシティの活用やオーセンティケーションは十分検討されるべきであり、とくに、地域を育てることが自らの利益に還ってくるローカルな主体にとってはインセンティブがある（→迂回する経済）
- 4 オーセンティケーションには、不動産関連業だけでない様々な業種のローカルな主体が加わる可能性がある（加わるべきである）

「共感都市」とは何か？

吉江の解釈



「共感都市再生セッション」吉江スライドより



Danny Woo Community Gardens, Seattle

地域性と オーセンティケーション

吉江俊
東京大学
大学院都市工学研究科

Shun YOSHIE, Ph.D